



【住所】 〒108-0014 東京都港区芝4-7-1 西山ビル4階

[Web] https://crfactory.com/

[Email] info@crfactory.com

f https://www.facebook.com/npocrfactory/



「コミュニティ マネジメントの教科書」 著者メッセージ

NPO法人CRファクトリー 代表理事 吳 哲 煥



「コミュニティマネジメント」の 体系的な知見・理論を届けたい

2005年に設立したNPO法人CRファクトリー。今年で 15周年を迎えます。一貫して「コミュニティつながり」の マネジメントに特化して、研究と実践を積み重ねてきまし た。

その積み重ねた経験とノウハウはかなりの厚みになり、 全国各地の市民活動やコミュニティ活動の方々から求め られるようになってきました。そこで、「これは体系的な 知見・理論書としてまとめて、多くの人が参考にできる情 報インフラにしなくてはならない」と、15年間やってきた 者としての使命感を感じて、今回の執筆・教科書発刊に至 りました。

全国各地の市民活動・コミュニティ活動の実践者たちと 触れてきてよく聞く声は、「組織運営が難しい」「人のマ ネジメントが難しい」という声です。想いと情熱があっ て、より良い活動や社会をつくろうとがんばっているの に、「人と組織の問題 | によってそれが前に進まなくな る。組織内がギクシャクしたり、場合によっては空中分解 して活動が終わってしまうことがある。これは本当によく ある構造で、とても"もったいない"と思い、ここに長らく 問題意識を感じてきました。

「コミュニティマネジメント」を 学べる機会がほとんどない

市民が自らの問題意識や興味・関心から活動を行なうこ とは、私はとても重要で尊いことだと思っています。それ がより良い地域社会をつくる手立てになるし、人と人と のつながりを育み、助け合い(互助・共助)の土壌をつく ることになるし、さらには一人ひとりの力の発揮・自己実 現にもなるからです。

しかし、その重要性や価値とは裏腹に、コミュニティのマ ネジメントがうまく行かないことによって、その価値ある 取り組みが実らなかったり、継続しないということも、こ の15年間で少なからず見てきたような気がします。でも それは、私たちがあまりにも「コミュニティマネジメント」 を学んでいないからではないでしょうか。

コミュニティマネジメントを経験できる現場は、幼い頃か ら存在します。小学生時代の習い事やスポーツチーム、 中学生時代の部活、高校生時代の体育祭や文化祭、さら には日常的な学校の「クラス」など、実は様々なところで コミュニティマネジメントの現場が存在します。しかし、 これらはどこかで先生や監督などの「大人」が場を仕 切ってくれていて、コミュニティをマネジメントしてくれて いたります。自分が主導でコミュニティをマネジメントす

WESSAG

る経験は少なく、さらには、その理論や実践ノウハウを学 ぶ機会などほとんど存在していないと言っても良いで しょう。つまり、コミュニティマネジメントにおいては、経 験も学習も共に少ないのです。

このように 「コミュニティマネジメント」 の経験や学習が少 ない中で、いきなり大学でサークルの代表や幹部を任され ると、うまくいかずに苦しんだりします。子どもが小学校に 入ってPTAの役員などを任されると、コミュニケーション や進め方のうまいやり方が見い出せずにもやもやしたりし ます。地域や特定テーマでNPOや市民活動をやろうと思 うと、想いや情熱があっても、「人と組織 | のマネジメント で苦戦して、なかなかうまく行かないことがあります。当 然と言えば当然です。私たちは、コミュニティマネジメント のトレーニングをほとんど受けてきていないのです。

市民活動・コミュニティ活動が 社会課題を解決する

これからの社会を考えていくにあたり、市民一人ひとりの自 発的・主体的な社会との関わりは、より重要性が増していく と思います。テクノロジーの進化などによって、個人ができ ることが増えてきています。働き方も多様になり、フリーラ

ンスや副業や二拠点居住なども増えていくでしょう。国や 行政の公助の枠組みや、企業組織の枠組みだけに頼らず、 市民の自由で、機動的で、生活感・現場感のある活動によっ て創り上げられていく社会の割合が増していくのではない でしょうか。自発的・主体的な市民活動・コミュニティ活動 が活発になることで、人と人のつながりが豊かになり、社会 に点在する様々な社会課題が解決され、その積み重ね・厚 みが格差の解消にもつながっていくと思います。活発な市 民活動・コミュニティ活動と、それによる人と人とのつなが りが、豊かな民主主義社会の礎にもなるのです。

『コミュニティマネジメントの教科書』は、そのような社 会を創り上げていくための理論書です。この理論書を ベースに、多くの人たちが経験と学習を積み重ねて「コ ミュニティマネジメント」がうまくなることは、良い社会 づくりにつながると確信しています。市民活動やコミュニ ティ活動の運営に役立てていただけると共に、行政のコ ミュニティ政策などにもぜひ役立てていただきたいと 思っています。『コミュニティマネジメントの教科書』は、 民主主義社会の市民必読の書です。ぜひお手に取ってお 読みいただき、みなさんの身近なコミュニティで実践し てみてください。そして、みなさんと一緒に良い社会をつ くっていきたいと思っています。



著 者 呉 哲煥(NPO法人CRファクトリー 代表理事)

2020年4月10日

B5オールカラー・160ページ

価格 2,000円(税込)+送料

コミュニティマネジメントの教科書をつくろうと思った理由

コミュニティマネジメントの基本理論

優れたコミュニティの要件 ~コミュニティキャピタルの3因子~

コミュニティマネジメントの施策・ワーク集

これからの日本社会にコミュニティが必要な理由

コミュニティをつくり運営するあなたへ

詳細・ご購入はこちら



ピックアップ事業事例

事例

コミュニティマネジメント塾@中野区&大田区



東京都中野区と大田区の2自治体で、行政との協働事業として「コミュニティマネジメント塾」を実施しました。

- (1) データが語るコミュニティとつながりの重要性
- (2) 強くあたたかい組織をつくるコミュニティマネジメントの原則
- (3) 団体の理念・ビジョンを明確にし、共有するためのコツ
- (4) 新たな仲間を巻き込み、主体的な担い手を増やすポイント
- (5) 一人ひとりの役割と出番がコーディネートされる組織づくり



地域の市民活動・コミュニティの基盤(活動の体幹にあたる、主体性や愛着、人と組織の関係性)を整えていくことはとても重要ですが、即効性がないようにも見えてしまい、どうしても後回しにされがちです。その重要性を行政の担当課にもご理解いただいて、場づくりをご一緒できたことは、私たちにとって大きな価値のある事業でした。

事例 3

eコミュニティ塾in松戸





まつど** NPO協議会

2019年度も引き続き、まつど市民活動サポートセンター(運営:まつど NPO協議会)にて、コミュニティ塾(E-learning版)を実施いたしました。

今回は発展期・成熟期の団体の組織基盤強化を目的に、参加団体を絞って少人数でじっくり学び合う機会として開催しました。

動画講義による事前学習と、スクーリング(集合授業)による対話を通して、課題の整理・分析や解決に向けたアクションプラン深める場を作ることができました。

同じ団体から代表だけではなく、スタッフ・メンバーも複数名参加することで、団体内での共通認識が生まれ、課題解決に向けた士気が高まることもこのプログラムの大きな効果です。そして講座最終日には、プレゼンテーションと交流会も行い、参加者同士の関係性が深まり、今後も情報交換やコラボができるようなネットワークも育まれました。今後も地域のコミュニティの価値を高めるため、各地の中間支援組織と協業してプログラムを展開してまいります。

事例

PTAのコミュニティキャピタル研究@越谷市





越谷市PTA連合会とともに、1年間を通して「PTAのコミュニティキャピタル研究」を行いました。

- PTA役員向けコミュニティマネジメントセミナー(200人規模)
- ・PTAのコミュニティキャピタル診断 (全45小中学校)
- ·研究成果報告会(全国のPTA関係者が参加)

研究を通して見えてきたことは、これからのPTA運営に向けて非常に興味深いものでした。

(1) 「PTAは目的意識を持って参加することが大事!」目的意識を高める余地は十分にあり、かつそれを高めることで、愛着が高まることが期待できる。

(2) 「PTA活動の目的意識は自分志向で良い!」自分のためになる、自分の子どものためになる、自分の地域のためになると思って参加している人の方が貢献意欲も高くなり、自己有用感、居心地、愛着も高くなる。

(3) 「PTA活動は経験者と男性がカギを握る!?」 経験者と男性が多いPTAほど状態がいい傾向がある。一方で、経験者は不本意ながら参加し不満を持っている可能性、男性は居心地の悪い思いをしている可能性がうかがわれる。

事例 4

「子育てにおける孤立と居場所について」の研究成果発表会







子育てを、まちでプラスに。 **comachi** plus 早稲田大学石田光規教授と認定NPO法人こまちぷらすで「子育てにおける孤立と居場所」についての調査研究を行ない、その成果発表会が開催されました。

調査結果では、こまちぷらすへの参加が「孤独感の解消」と「自己肯定感の向上」に正の相関があることが確認されて、プラスな影響があることが示されました。こまちぷらすが普段からつくりあげている場や関係性が、このような価値・人の変化を生み出しているということに感動を覚えると共に、そのことが"学術的根拠を持って示された"ことは大きなことだと感じています。

コミュニティやつながりの価値はなかなか可視化しづらく、そのことに よってその重要性が見落とされてしまったり、後回しにされてしまうこと はよくある構造だと感じています。コミュニティやつながりの価値の定量 的・定性的な可視化にこれからも取り組んでいきたいと思います。

03 CR Factory Annual Report 2019 ピックアップ事業事例 CR Factory Annual Report 2019 しックアップ事業事例

PICK UP

ピックアップ事業事例

事例

ひとしごと館@大阪市浪速区



Co.to.hana

NPO法人Co.to.hana (コトハナ) が運営する、「ひとしごと館」のコミュニティデザインのコンサルティングと、E-learningによる研修の提供を行いました。

ひとしごと館は、大阪市浪速区を拠点に仲間づくりや助け合いのサポートをおこなうコミュニティサービスです。地域住民のとくいが集まり、とくいを活かしたい人と困っている人とをつないで、ひとが輝く社会を実現することを目指しています。

日々の「つながる」と「働く」が分離しがちな現代社会の都市部で、2つをかけ合わせて、「ともに生きる」をつくるコミュニティだと感じました。そのコミュニティのこれまでを振り返りながら生み出してきた価値を可視化し、これからのありたい姿をコトハナのスタッフのみなさんとの対話によって描いていきました。

「eコミュニティ塾」を組織の研修として導入した初めての事例でもあり、みなさんの実践の豊かさと意欲の高さで、とても良い学びの場になりました。

7

「コミュニティ・カーシェアリング」の支援と調査







一般社団法人日本カーシェアリング協会との協働で、宮城県石巻地域の「コミュニティ・カーシェアリング」の活動に対しての支援と調査を行ないました。

FIGA UF

「コミュニティ・カーシェアリング」はご近所同士で自動車をシェアしながら、買い物やレジャーを共に楽しむ活動です。支え合う地域づくりを目的とし、移動手段を持たない高齢者にとってはライフラインにもなります。 それぞれの地域にカーシェア会があり(約10団体)、それぞれに対して「コミュニティキャピタル診断」を実施し、コミュニティの状態やメンバーの意識についての可視化を進めました。これからさらに良い活動・良いコミュニティになっていくための支援を続けていきます。

また、東北大学と上智大学と連携して、「コミュニティ・カーシェアリング」の健康や幸福への効果についても検証しています。こちらは調査研究がまとまりましたら、広く発表していきたいと思っています。

事例 6

幸雲南塾@雲南市





あた おっちラボ

NPO法人おっちラボが島根県雲南市で運営する「幸雲南塾」の側面サポートを務めました。「幸雲南塾」は、地域で学びと実践の機会を繰り返すことを通して、地域の未来を切り拓いていく人材を育成するプログラムです。

2019年度の幸雲南塾は、人材育成にとどまらず、「チームや生態系の育成」をテーマとされていました。そこに、CRファクトリーのコミュニティマネジメントの知見を活用いただきました。

具体的には、「塾生のチームビルディングや振り返りの場づくり」と「おっちラボの事務局メンバーとの壁打ち」をサポートいたしました。

特に、雲南らしい自然のそば (川のせせらぎの隣で/焚き火を囲んで) で チームビルディング・相互理解を深めたことは、感性を刺激されオープン な自己開示をうながしてくれました。

また、学習意欲と地域愛の強いおっちラボのみなさんとのパートナーシップでプログラムを進めていくことで、私たちにとっても多くの気づきをいただきました。

事例 8

障害者自立生活センター全国合宿





全国の障害者自立生活センターのスタッフが集まる研修において、コミュニティマネジメントセミナーを実施しました。

自立生活センターは当事者とヘルパー・スタッフが一緒になって運営している組織であり、多くの組織が主客融合感のあるコミュニティ的な構造であることに特徴があります。日々の事業や生活支援に追われてしまいがちな中で、「私たちは何を目指しているのか」という理念・ビジョンを共有することの重要性や、「組織への愛着」と「仲間との関係性」を育むことの重要性について、具体的なやり方・ノウハウも交えて学びました。

全国の障害者自立生活センターの組織において、コミュニティマネジメントのノウハウが活かされることに大きな喜びと価値を感じます。これからもますます良い活動・良い組織が増えていくように引き続き関わっていきたいと思います。

05 CR Factory Annual Report 2019 ピックアップ事業事例 CR Factory Annual Report 2019 ピックアップ事業事例

KEPUKI

事業報告

人々が居心地良くイキイキと活動するための組織基盤づくりを支援する事業 NPOやコミュニティのマネジメントに関わる人を主な対象として、以下のような事業を実施しました。

PHASE1

セミナー・講座・勉強会

「強くあたたかい組織のつくり方」、「スタートアップ(団体の立ち上げ方)」、 NPOリーダーをゲストに招いての勉強会などを実施し、毎回コンスタントに多く の方にご参加いただき、団体としての発信力の向上を実感しています。

スタッフ研修・

コンサルティング

NPOや地域コミュニ

ティからご依頼いただ

き、組織基盤強化を行う

ため、メンバーの相互理

解、ビジョン策定、事業

計画策定などを支援し

ました。

PHASE2

コミュニティ・ マネジメントに 変化を生み出す コミュニティ塾

参加人数

7期目を迎え、体系的な連

続講座によるインプット、事

前課題やプレゼンなど豊富

なアウトプットと相互フィー

ドバックを通して、コミュニ

ティ・マネジメントを習得し

た修了生を輩出しました。

E-learningとスクーリングを組 み合わせた反転学習のコンテ ンツとして4期目を迎え、深い 学び合いによるネットワークと 質の高いアウトプットが牛み出 し、各地域でも展開できるプロ

オンライン コミュニティ塾 コミュニティ・ エンパワメント・ラボ

5期日を迎え、修了生主

体の運営を継続し、質の

高い磨き合う環境を整

えることで、プログラム

終了後も、修了生による

自主的な交流や活動が

生まれました。

コミュニティの状態(理 念共感·自己有用感·居 心地の良さ)を数値化す るツールとして、NPOや PTA、企業など多方面 の団体に導入すること

コミュニティ・

キャピタル診断

参加人数

グラムとして確立しました。

コミュニティ・フォーラム

ができました。

参加人数

※2020年7月開催予定

PHASE3

強くあたたかい コミュニティ づくりを 志す人たちが集う ビジョン・フォーラム

昨年度に引き続き「応援会員」となっ てくださる方々をはじめ、CRファクト リーを取り巻く生態系の関係性・エン ゲージメントを深める場として実施し ていきます。

参加人数

全国に「強くあたたかい組織」をあふれさせるための普及育成事業 各地の中間支援組織や自治体からの依頼を受けてセミナー・講座を実施し、様々な

テーマで多くの方々にコミュニティ・マネジメントについての普及育成を行いました。 中間支援組織·自治体

長野市市民協働サポートセンター、佐久市市民活動センター、福島市市民活動サポートセン ター、春日部市市民活動センター、すぎなみ協働プラザ、八王子市市民活動支援センター、我孫 子市民活動ネットワーク、武蔵野プレイス、八潮市社会福祉協議会、富山県、横浜市、千葉市、三鷹 市、川口市、船橋市、塩尻市、魚沼市、狛江市、朝霞市、中央区、台東区、都筑区、栄区、明治大学、お 茶の水女子大学、神田外語大学、関西大学、トヨタ財団、日本障害者リハビリテーション協会、マド レオホーツク、夢・コミュニティ・ネットワーク、長寿社会開発センター、名古屋JC、小田急電鉄

年間 開催

参加人数

セミナー・講座のテーマ例

強くあたたかい組織・コミュニティをつくるポイント/新たな仲間の巻き込み方/主体的な担 い手の育成 / 愛着と関係性を育むための"相互理解"のコツ / データで語るコミュニティとつ ながりの重要性 / 未来のコミュニティの可能性 / 地域人材が活きるコミュニティづくり / 大 学公認サークル幹部員向け講習会 / 通いの場運営者向け講座 / 非営利組織のマネジメント から学ぶPTA運営のポイント

セミナー・講座といった直接的 な学びの場だけではなく、書籍・ ツールを販売することによるノ ウハウの普及を行いました。

₩

書籍 **NPOの** 組織マネジメント ノウハウ・ コレクション

₩

書籍 コミュニティ白書 2016



コニューティ運営 支援ツール コミュ助

地域に元気な団体と個人を増やすために 自治体と連携して地域づくりを支援するアウトリーチ事業

コミュニティの活性化やコーディネート人材の輩出を目的として、連続講座や育成プログラムを実施しました。 各自治体と良好な協働関係を築けており、いずれも継続的な取り組みになっています。

東京都中央区

地域コミュニティの担い手養成塾

全〇回 開催

町会・自治会などの地域コミュニテ ィの新たな担い手を育成し、主体 的な活動を支援しています。 すでに5年目となり、これまでの成 果をまとめて発信するためのレポ 一トを作成しました。

千葉県鎌ケ谷市

かまがや地域づくりコーディネーター

地域の市民活動をつなげるコーディ ネーター人材を育成するための養 成講座として実施しました。 4年目となりますが、運営を市内の 民間中間支援組織(鎌ケ谷マネジメ ントラボ)と協力して行っています。

東京都中野区

コミュニティマネジメント塾 in 中野区

全〇回

東京都大田区

コミュニティマネジメント塾 in 大田区

全门回 開催

東京都中野区と大田区の2自治体で、行政との協働事業として実施しました。 地域の市民活動・コミュニティの基盤(活動の体幹にあたる、主体性や愛着、人 と組織の関係性)を整えていく学び合いの場をつくりました。

その他の協働自治体、神奈川県横浜市(地域づくり大学校ステップアップ講座)、東京 都武蔵野市(長期計画策定のコンサルティング、コミュニティ未来塾むさしの)、など

中間支援組織等と共に 組織基盤づくりを支援する パートナーシップ事業

各地の中間支援組織など共有ビジョンを描 けるパートナーとともに、強くあたたかい 組織やコミュニティを増やすための組織基 盤づくりの支援を全国で行っています。 地域のコミュニティの価値を高める協働事 業の実施、CRファクトリーのコミュニティ・ マネジメント支援施策の提供・導入、戦略 策定の支援などを行っています。



「強くあたたかい組織」をつくるためのノウハウ研究・開発、 「つながりとコミュニティの重要性」についての研究・エビデンスづくりを行う調査・研究事業

コミュニティ・キャピタル研究会(上智大学との共同研究)

コミュニティキャピタル診断は、これまでの累積で実施団体数408団体 実施対象者9314名となりました。東京都文京区、宮城県石巻市、千葉県 松戸市、など、さまざまな地域で診断を使った事業が動いています。

こまちぷらすの価値可視化(早稲田大学との共同研究)

早稲田大学の石田光規教授との連携で、NPO法人でまちぶらすの「T ミュニティ の価値・効果についての調査研究を行ないました。「孤独感」 や「レジリエンス」に効果があることが明らかになりました。

「住民主体の共生型地域づくり」に関する研究(厚生労働省)

厚生労働省の研究班に参加し、「地域共生社会」づくりのための調査を実 施しました。2地域(2団体)20名以上の方にインタビューを行ないなが ら、「主体形成」「つながりづくり」の原理を解明しています。

幸せなコミュニティ研究会(慶応大学との共同研究)

慶応大学SDMの前野降司教授と発足した研究会で、数多くのNPOや企業 が参加。「コミュニティ」と「幸福」の関係についての実証研究を進めると共 に、幸せなコミュニティの要件を明らかにしようと研究を進めています。

07 CR Factory Annual Report 2019 事業報告 事業報告 CR Factory Annual Report 2019 08

参加者・パートナー・クライアントの声

経営者の通知表

私たちは、共働きやひとり親家庭のこどもたちの放課後の居場所「学 童保育 | を9箇所運営しています。学童保育は地域に密着した事業な ので距離的に離れた場所でそれぞれの施設に正規職員が2-3名ずつ いるという常にリモートワークな状況です。顔を合わせない中での理 念の共有やお互いのつながりを感じるのが難しいのが悩みでした。 そこで、お互いが顔をつきあわせて相談することができるよう、それ まで各施設にそれぞれの判断する時間に直接出勤していたものを、午 前中に全員が事務所に出勤して同じ空間で事務作業をやってから各 施設に移動するように改革を行いました。出勤時間は早くなるし、自 分の施設から遠い事務所に出勤するのは面倒です。発表した当時は 反対する職員もいました。

しかし、半年後のコミュニティキャピタル診断では「理念共感」「自己 有用感 | 「居心地の良さ | のすべての項目で前年よりも大幅にスコア がアップしていたのです!正直なところ「自己有用感」と「居心地の良 さしまでスコアが上がるとは予想していませんでした。これはお互い が組織にどんな貢献をしているかが見えるようになったり、組織の中 で雑談がたくさん生まれたりした結果だと考えています。

団体を運営していると、ついつい賛成したり反対したりするメンバーの 声が気になってしまうのではないでしょうか?しかし声を上げている本 人すら気づいていない本音があるのかもしれません。NPOは収益を目 的とせず、活動の成果や職員の目標など数値化しにくい領域が多く存 在します。しかし、コミュニティキャピタル診断は団体の職員が同じ方 向を向いているか、やりがいを感じているか、孤独感を感じていない か。「理念 | という名の風呂敷に覆い隠されがちな団体の「本当のトコ 口しを定期的にあぶり出してくれます。これは健康診断と言うより、もは

> や経営者にとっての通知表です。良 い時も悪い時も、冷静に組織を見 つめる助けになってくれます。

特定非営利活動法人 Chance For All 代表理事 中山 勇魚さん





担当コンサルタント(呉)から

「組織基盤」は良い事業・活動のた めの"根っこ"です。"根っこ"がしっ かりしていると、良い花が咲き、良い 果実が実ります。CFA:中山代表の 「健康診断であり経営者の通知表 だ」という言葉には、"根っこ"である 「組織基盤」(メンバー・組織)への 着目を感じます。メンバーや組織の状 態・温度を測定・把握し、それを良くし ていくことが良い事業(学童)をつ くっていくことにつながるのだという 考え・姿勢を強く感じます。

壁ではなく、橋を作る! CRファクトリーに心から感謝いたします

様々な団体とかかわる中で、コミュニティマネジメントは難 しいと感じていました。塾で体系的に学び、自分の想いを言 語化するうちに目指すものが明確になってきました。壁では なく、橋を作る! CRファクトリーの講師の方々、そしてとも に高め合える仲間に心から感謝いたします。これからも塾の 門下生として、誇りをもって前に進みます。

コミュニティ塾 7期生

しろい市民 まちづくりサポートセンター センター長 石垣 裕子さん



コミュニティに関わる多くの人に かけがえのない学びを与えてくれる

気づくと通勤中もコミュニティのことを考えている自分がい るくらい、eコミュニティ塾は充実した学びの期間でした。得 られたアイデアはすぐに実践したくなるものばかりで、今後 の活動が益々楽しみになりました。全国で活躍している同 期の仲間ができたことも励みになりますね。この塾は、コ ミュニティに関わる多くの人にかけがえのない学びを与えて くれると思います。

コミュニティ塾 (E-learning版) 4期牛

Brillia City 横浜磯子自治会 自治会長

田形 勇輔さん



自分の望む団体との距離感が 大変クリアになりました

団体のWEBサイト制作業者という、特殊な立ち位置でのラ ボ参加でしたが、「自分がどこまで団体に関わりたいか」を 見つめ直すことで、自分の望む団体との距離感が大変クリア になりました。ベテランの多い団体メンバーの皆様にも、新 しい企画や取り組みを求める姿勢が生まれ、今までの「惰 性 | や 「遠慮 | を乗り越える変化のエネルギーに、私も勇気 をもらえています。

コミュニティ・ エンパワメント・ラボ 5期生

NPO法人 ユニバーサルデザイン 絵本センター

小林 弘和さん



VOICE

教科書を片手にトライしています

北海道北見市で念願のワークショップ開催により 「強くあたたかい組織」を目指す、共通言語を持っ た仲間がたくさん誕生しました。

オホーツクのような地域では、一人ひとりが「主役」 として持てる力を存分に発揮するための、安心なコミュニティづくりがとても重要だと感じています。マドレ・オホーツクでは、コミュニティマネジメントの教科書を片手に理念づくりや年間計画策定などにトライしています。今後の変化が楽しみです!



マドレ・オホーツク 代表 **川尻 沙織さん**

協議会は大切な地域のつながりの場

魚沼市コミュニティ協議会連絡協議会で「地域人材が活きるコミュニティづくり」についてご講演いただきました。コミュニティ協議会が地域で活動していく中で、参加者が少ない、若い者が入ってこない等の悩みがありました。コミュニティ協議会は、大切な地域のつながりの場だと思っています。ご講演から学んだ事を活かし、支援員として、地域の方と一緒に強くあたたかい地域づくり活動をしていきたいと思います。



新潟県 魚沼市役所 集落支援員 佐藤 静香さん

その後の活動にとても有効でした

自立生活センター(CIL)は全国に130箇所あり、障害 当事者の立場から障害者の自立生活支援、権利擁護 の活動をしています。その中の全国研修会の一日を CRファクトリーにお願いしました。

CILは当事者性の強みはあるのですが、立ち上げ当初は運営、組織づくりも手探り進めざるを得ません。それゆえに「理念共感・自己有用感・居心地の良さ」を学び、それぞれのCILの活動に落とし込むワークが出来たことはその後の活動にとても有効でした。



つくば自立生活センター ほにゃら事務局長 **斉藤 新吾さん**

内省と対話で新たな一歩を

地域のコーディネーターの育成を目指し、五井渕さんとともに「よこはまエンパワメント・ジム」を実施しました。受講生は内省と対話により、活動を軸に自分のありたい姿を見出し、新たな一歩を踏み出しました。ゴールや人物像を求めるのではなく、仲間とエンパワメントできる場づくりに徹することで、それぞれの到達点に辿り着くという学びを今後の事業に活かしていきたいと思います。



横浜市市民局 **安養寺 智**さん

勇気づけて頂きました

CRファクトリーさんが提供してくださる学びは、心に留まるフレーズと分かりやすいレクチャーであり、学びが深まりました。また、コミュニティ運営で直面しがちな悩みにおいても、その豊かなご経験から、各事例に寄り添うアドバイスで地域で活躍しているリーダーたちを勇気づけて頂きました。

私は、一人でも多くのリーダーにCRファクトリーさんの学びが届くことを祈念しています。



NPO法人はたらくらす 代表理事 **石渡 裕美さん**

様々な地域での発展を期待してます

eコミュニティ塾 (eコミュニティ塾 @ 松戸) で協働させていただきました。

地域では世代によって活動の色が分かれることもあり、団体同士が交流するきっかけは多くはなく、また団体の運営の悩みや工夫の情報交換を頻繁にできる訳でありません。本事業を通じて、団体運営のノウハウを共有するとともに、団体間のコミュニケーションが生まれたことが価値だと感じます。ぜひ様々な地域でeコミュニティ塾が発展することを期待しています!



まつど市民活動 サポートセンター コーディネーター **松村 大地さん**

本当に心強い存在です

年に1度全国20以上の都道府県から支部の代表者が集まる合宿研修を実施しています。数年前の合宿から「支部ごとのコミュニティキャピタル診断」を実施した上で、CRファクトリーの研修実施したところ、各支部の反応は劇的に変わりました。数値に基づく具体的なフィードバックを各支部ごとに受け、それぞれにあった施策を打てるように。ボランティアマネジメントという答えが不明瞭なことに取り組む上で明確な指針となり、本当に心強い存在です。



NPO法人チャリティーサンタ 代表理事 **清輔 夏輝さん**

このような時代だからこそ

育児と居場所、孤立に関する調査、その他のフォーラムでご一緒させていただきました。そのたびに、現代社会における居場所の役割について、さまざまな示唆を頂戴しました。

新型コロナウィルスの流行により、私たちのつながり、居場所の意味合いは変わりつつあります。このような時代だからこそ、居場所、コミュニティを射程としたCRファクトリーさんの取り組みは、ますます重要になることでしょう。



早稲田大学 文学学術院教授 **石田 光規さん**

CRファクトリーのメンバー紹介

CRファクトリーのビジョンに共感し、共に活動するメンバーご紹介します。

個性豊かなメンバーの協力と連携に支えられ、私たちも強くあたたかい組織づくりに取り組んでいます。



イベントの中でお会いする方々の コミュニティが幸せとなる一助をしたい

イベントの企画・集客・運営を担当していました。私達は意識している以上に日常の中で たくさんのコミュニティに触れており、心身の健康や幸せに大きく寄与していると考え ています。イベントの中でお会いする方々のコミュニティが、より強くあたたかいコミュ ニティとなること。何よりもご自身が健康で幸せな時間を過ごせるコミュニティとなる一 助をしたいと思いイベント運営をしていました。

だから、ラボはおもしろい!

市川 朋輝さん

主に5期コミュニティ・エンパワメント・ラボの運営に携わりました。参加者がモヤモヤに向 き合って自分なりに言葉を紡ぐ姿や、参加者同士が"はじめまして"な関係から、壁打ちで きる深い仲間になっていく様子は、温かくて力に満ちています。そして、私自身が自分を 見つめ直す機会をくれます。だから、ラボはおもしろい!今後も色々な方に参加いただきた いし、ラボ卒業生のコミュニティもゆるやかに続けたいと思います。



「コミュニティ・エンパワメント・ラボ」 プロジェクトメンバー 栗本 蕗さん



代表理事 吳 哲煥



副理事長 五井渕 利明





事務局長 原田 篤志



管理部長 安達亮



富永 早咲



理事 阿部 剛 (NPO法人 まつどNPO協議会理事)



理事 杉山 絢子 (一般社団法人 CAN net代表理事)



理事 森 祐美子 (認定NPO法人 こまちぷらす代表)



監事 石橋 正行

プロジェクトメンバー

主催イベントプロジェクト

細川 朋美

廣瀬 めぐみ 市川 朋輝

野間 ひかり 長町 理央

コミュニティキャピタル診断プロジェクト 小松原 一輝

研究·開発事業

米田 佐知子 小池 隆太

「コミュニティ・エンパワメント・ラボilプロジェクト

平川 暢 細川 朋美

「コミュニティ塾(E-learnig版)」プロジェクト

竹下 諒

講師・インストラクター

「インストラクターにかける想い、届けたい価値」を収集しています。

多種多様な"つながり"

は人を成長させ、人生を



豊かにし、支えにもなり ます。"つながり"があふ れ、希望が持てる社会に なるように、知恵と汗を 出しあいましょう。

一般社団法人 風土人 代表理事



沼田 翔二朗 NPO法人DNA 代表理事



WEWBER

いけるようなコミュニテ ィを、ともに探究してい きたいです。



阿部 剛 まつどNPO協議会 理事



オンライン化の新しい 時代も1人1人が団体で 力を発揮しながら、理念 実現できるためにできる ことを共に考えながら取 り組んでいきます。

認定NPO法人こまちぶらす 副代表/理事



とともに力を合わせて つくっていく。その豊か さを味わい、難しさを超 えていく知恵を学びあ っていきたいです。

認定NPO法人マドレボニータ 理事

スタッフギャザリング(研修)

CRファクトリーもひとつのコミュニティ。

年4回、メンバーが一同に介して、対話・ワークショップを通して、共通認識のすり合わせや相互理解を深めています。

2019年5月 理念共感・貢献意欲

代表からCRファクトリーのビジョンや戦略をプレゼ ンを聞いたり、コミュニティの歴史·変遷を語り合っ たりしました。「団体がどの方向に向かっているの か」を共通認識を持ち、「何に共感して活動している のかしを再確認する時間となりました。



7月 居心地の良さ(関係性づくり)

みんなで鎌倉へ!観光スポットを巡ったり、古民家を 借りて、「自分×団体プレゼン」という自分の原体験 や団体への想いを語るワークを行いました。プライ ベートの時間も価値観を知る深い時間も分かち合 うことでメンバー同士の関係性が深まりました。

11月 自己有用感(活動振り返り)

下半期を迎えたところで、それぞれの担当業務・プ ロジェクトについてみんなで振り返るワークショッ プを実施しました。これまでの活躍や貢献に、労い と感謝のメッセージを伝え合って、自分たちの役立 ち感や活躍を再確認できる一日になりました。





2020年2月 次年度夢語り(ドリームミーティング)

2019年度の事業を振り返りながら、ビジョン実現 に向かうためには、2020年度にどんな事業がある と良いか、どんな組織になっていけると良いか、団 体の夢をブレストして語り合いました。来年度も関 わる意欲やモチベーションが上がりました。

13 CR Factory Annual Report 2019 CRファクトリーのメンバー紹介

緊急提言

これから起こる構造変化と市民活動・コミュニティ活動

新型コロナウイルスの影響によって起こる 構造変化

いま世の中は新型コロナウイルスの影響によって大きな変化の渦 中にある。緊急事態宣言が全国で発出され、外出自粛要請や休 業要請が出され、学校は休校し、三密を避けなければならない状 況が続いている。医療体制の崩壊を防がなくてはならないと同時 に、経済や社会を動かしていかなくてはならない中で、この文章 を書いている今も世界中で不安と混乱と模索が続いている。

これは間違いなく世の中が構造レベルで大きく変わる機会とな るだろう。「パンデミック(感染の世界的大流行)が終わった後に は、必ず別の世界がやって来る」。これは過去の歴史が証明して いることである。コロナ収束後の世界は、ニューノーマル(新常 態)が生み出されて、それが不可逆的に定着するであろう。

そして、この革命レベルの大きな構造変化の中で、「コミュニ ティしと「つながり」はどうなっていくのだろうか。私はいま大きく 3つのことを考えている。

1. 「コミュニティ」と「つながり」の価値が急速に向上する

新型コロナウイルスの影響による社会状況を通じて、「コミュ ニティ| と「つながり」の価値と重要性は見直され、高まって いくように思う。「コミュニティ」と「つながり」があることに よって助けられていたり、この状況下でも比較的いきいきと 生きられている人もいる。一方で、「コミュニティ」と「つなが りしが限定的であったり、あまり頼れるものでなかったとき に、生きづらさや孤独を感じる状況も起きていると思う。そ れがこの状況下で浮き彫りになっているように感じる。

Withコロナ期間が仮に2年間続いたとして、その先にある Afterコロナの世界では、「コミュニティ」と「つながり」の価値は 上がっているであろう。マネーキャピタル(経済的資本)のみな らず、ソーシャルキャピタル(関係資本)、コミュニティキャピタ ル(共同体資本)が豊かであることが「生きる質」の大事な要素 として意識されることになる。「つながること」が自由で選択的 でオンライン化されるがゆえに「孤立しやすい構造」にもなるか ら、未来の世界では「コミュニティ」と「つながり」をつくること が個人の資本蓄積として重要性を増す。社会としても国民・市 民の資本蓄積をサポートするような政策や支援が必要になる。

2. 「コミュニティ」と「つながり」の再編集と 格差拡大が起こる(格差拡大の力が働く)

移動すること、リアルに集まること、会うこと、のいくつか(あるいは 大半)の部分がオンラインに代替されていくとき、そこには「コミュ ニティ と 「つながり」のメンバーシップ (顔ぶれ) やかたちに変化が 現れ、再編集が行なわれていく。オンラインに強い人は「コミュニ ティ活動」や「つながりづくり」がしやすくなり、そうでない人はそれ がしにくくなる。それが「コミュニティ」のメンバーシップとかたちを 変えていく。

さらに重要なのが、オンライン化した世の中の方が、「つながる主 体性」が求められるのではないかという予感である。与えられ「コ ミュニティしと「つながり」から、自ら主体的に獲得する「コミュニ ティ |と「つながり |という構造に変化するであろうという予感で ある。そのとき、つながる意欲とスキルの格差が、「コミュニティ」 と「つながり」の格差となっていくかもしれない。「コミュニティ」 と「つながり」の重要性が増す中で、この格差は「生きる質」の差 にも大きな影響を与えていく。「つながること」を個人任せにしな い機会の保障や社会環境づくりを考えていきたい。

3. マルチ所属とコミュニティ活動の活発化

今回の新型コロナウイルスの影響で働き方のスタイルが大きく変 わる可能性がある。そして、それはAfterコロナの世界でも不可逆 になる(元に戻らない)ような気がする。在宅・リモートワークが 定着し、週の2~3日は会社に出社するが、残りの4~5日は自宅・ 地域に居るというような構造変化が起きる。特に一番構造変化が 起きるのは男性会社員で、20~50代の男性会社員の地域に居る 時間が増えることは大きな構造変化となるだろう。

そのことによって、地域の活動に参加しやすくなったり、子どもの 授業参観や保護者会に参加できたり、地元のサークル活動やイ ベントにも参加しやすくなるかもしれない。仕事だけがアイデン ティティの中心になりやすい旧来からの日本社会の構造が変化 し、仕事以外にも様々な活動や居場所を持つ「マルチ所属」の傾 向が強まることになるだろう。このことは、仕事以外の「コミュニ ティ」や「つながり」が増えることを意味し、「楽しみ」においても 「支え・ケア」においても、複数の網(ネット)が張りめぐらされる ことになる。それが人生の快活さの向上や、緊急時(人生に起こ る様々な困難)のセーフティーネットにもなりうるだろう。

以上の3つが、新型コロナウイルスの影響による大きな構造変

化として起こることではないかと思う。新型コロナウイルスの 影響はここから2年くらい続くと言われている。今はまだ不安 と混乱の中にいて、早く「いつもの日常が戻って欲しい」という 気持ちもある。しかし、この影響によるいくつかの不可逆的な 構造変化は起きるだろうし、2年の歳月を使いながら、徐々に 構造変化と適応が進むと思う。

これからの市民活動・ コミュニティ活動

この構造変化を踏まえて、これからの市民活動・コミュニティ活 動にお願いしたい3つのことがある。

1. 2年間かけてオンラインに強くなること

Withコロナの2年間のうちに、オンラインに強くなっていって欲 しい。三密をつくれない状況はきっと長く続く。リアルなミー ティングやイベントや懇親会はやりにくくなるだろう。それが長 く続くであろう。ここは気持ちを切り替えて、苦手意識を超えて いきたい。なかなかオンラインでのミーティングやイベントなど は難しいと腰が引けてしまっている人も、2年間あるから、少し ずつ、徐々に、強くなっていって欲しい。もちろんリテラシーの 問題もあると思うが、気持ちの問題も大きいと思う。その気に なれば、今からでもいろいろと習得できるものである。

私は「コミュニティ」と「つながり」は人間や社会にとって大事な ものだと思っている。そして、市民活動・コミュニティ活動が「コミ ュニティ」や「つながり」を創り出している製造工場のようなもの だとすれば、それが止まってしまっては困るのである。イベントや 活動や場があってこそ、人は出逢い、つながりをつくることがで きる。その媒介者となる市民活動・コミュニティ活動は止めては いけないし、これからますます必要とされる。オンラインを駆使 してでも活動を続けていって欲しい。

2. つながりの格差を埋めること

これからWithコロナの2年間をかけて「つながりの格差」が生 み出されやすい構造に変化していくと思う。ITリテラシーの差 がつながりの差になることはもとより、先ほど述べたように「つ ながる主体性の差」がつながりの差になることが予想される。 与えられる (用意される) つながりが減り、自宅から自由で選択 的につながりを選ぶ構造になれば、つながる意欲とスキルの差 が「つながりの格差」を生むことになる。

ここは市民活動・コミュニティ活動の出番だと思う。いろいろな 入り口を用意しながら、人がつながれるように、社会参加できる ように、機会と場をつくっていく。時にはさりげなくお誘いのア

プローチをして、人と場をつなぐ橋渡しのようなアウトリーチを 仕掛けていく。「つながりの格差」が生み出されやすい構造に変 化していくからこそ、そうならないための機会と場を積極的に用 意する必要がある。時には少し良いかたちでおせっかいなアウト リーチのアプローチも必要になってくると思う。「つながること」 を個人任せにしない機会の保障や社会環境づくりを担う意識を 持って活動したい。

3. 社会参加が増えることへの対応

先ほども述べたように、新型コロナウイルスの影響による構造 変化は、多くの人の社会参加を促進することになるであろう。イ ベントに参加する人、単発ボランティアをする人、団体のスタッ フになる人など、多くの人が仕事以外の社会活動をするように なる。これはイベント集客という点でも、スタッフ・担い手の獲 得という点でも、大きな追い風である。しかし、この追い風をう まく使えるかどうかは団体にかかっている。うまく使いたい。

例えば、オンラインで気軽に参加できる「説明会」のようなもの が効果的かもしれない。今までは交通費と時間をかけて移動す ることや、その会場に行くという行為自体が気軽ではなく、コス トのかかる行為となっていた。それをオンラインの説明会にする ことで、個人は複数の団体の説明会に、かなり気軽に参加できる ことになる。「まずは一度話を聞いてみよう」みたいな行為も、わ ざわざカフェで待ち合わせて緊張しながら会わなくても、30分 だけオンラインで会って話を聞くみたいなことが気軽にできる。 オンラインはそういう「気軽な」初期の機会創出に向いている。

そういう気軽な接点を増やしつつ、その中から熱量の高い本気 の関わりみたいなものにつなげられるかもしれないし、多様な関 わりが増えることがコミュニティの厚みにつながったりもする。 働き方の構造変化による社会参加の増加を見越して、イベント 参加やスタッフ・担い手につなげられるような準備を今からしい きたいと思う。多くの人が市民活動やコミュニティ活動に関心を 持って社会参加が増えていく流れは、チャンス・追い風になるか ら、それをちゃんとつかまえたい。

新型コロナウイルスの影響は、今はまだ渦中すぎて、社会も人も まだまだ不安や混乱の中にある。しかし、少し中長期的な視点に 立って、コロナ時代に起きる構造変化を予測し、それに対して自 分たちができることを見つけて、「自分たちらしい実践」を試みて いきたい。私の見立てでは、「コミュニティ」と「つながり」の重要 性が高まることと、市民活動・コミュニティ活動の果たす役割は 大きくなっていくと思っている。幅広い連携をしながら、自分た ち自身が構造改革と進化をしながら、ピンチをチャンスに変え て、「コミュニティ |と「つながり |の豊かな社会を今こそつくって いければと思う。

今後の戦略

2020年度 CRファクトリー事業方針

CRファクトリーは、新型コロナウィルス状況下において、前のめり・実験的に事業を推進し、市民活動・コミュニティ活動のエ ンパワメント・キャパシティビルディングと、つながりの断絶を食い止めることに取り組みます。 以下を2020年度の重点強化方針とします。

- **⚠** Webセミナーやオンライン対話の場を数多くつくります。
- **⚠** 現状や変化を可視化する調査・分析レポートを行います。
- ☆ 距離の制約を超えて全国のNPO・中間支援組織・行政との協働を志向します。
- ☆ デジタルデバイド等によって孤立が深まる社会状況を改善する事業を模索します。

具体的には、たとえば以下のような取り組みを行います。随時、ホームページをご確認ください。

- ウェビナー・オンラインイベントの開催(例年のセミナーよりも回数を増加)
- コミュニティフォーラム2020「今、あらためてコミュニティと出会う」のオンライン開催
- コミュニティキャピタル診断の無料提供
- 調査レポート「新型コロナウィルスの影響によるコミュニティ・NPO組織の運営方法の変化についてのアンケート」
- 調査レポート「オンラインイベント・ウェビナーの参加しやすい時間帯についてのアンケート」
- 書籍『コミュニティマネジメントの教科書』出版
- コラム「コロナ時代の市民活動・コミュニティ活動」
- ●「コミュニティ塾」「コミュニティ・エンパワメント・ラボ」のオンライン開催の検討

SERVICE

サービス一覧

参加型プログラム



コミュニティ熟

NPO·市民活動・サークルなどの 「組織運営」に 必要なマネジメント 項目のすべてを体系的に学ぶ全8回 践的なノウハウまで学んで、組織に 大きな変化を起こしていきます。



コミュニティ塾 (E-learning版)

「コミュニティ塾」の内容を自宅 で動画学習し、スクーリング(集 の連続講座です。基礎知識から実 ンを対話を通して深めていく「反 転授業」で、コミュニティマネジメ ントの体系を学びます。



コミュニティ・エンパワメント・ラボ NPO・コミュニティのリーダー・メン

バー同十で、個人のビジョンや軸をブ 合授業) で実践に向けたアクショ ラッシュアップしていく対話プログラ ムです。自分と団体の関係性、自分の ビジョンを見つめ直し、活動へのモ チベーションを高めていきます。

導入ツール

コミュニティキャピタル診断

上智大学との共同研究を通して、 400団体以上、9,000名を超える NPO団体のメンバーのアンケート調 査で実証された3つの因子をもと に、「組織・コミュニティの状態」を 測定できる診断ツールです。



コミュニティ運営支援ツール「コミュ助」

コミュニティ運営における「ミーティ「 ング」「イベント集客」「年間計画」 の課題を解決する運営支援ツール です。運営に変化を起こす具体的な 方法・進め方がわかり、すぐに導入で きるテンプレートもご提供します。



書籍

コミュニティマネジメントの教科書

CRファクトリーが10年以上にわたっ て培ってきた「強くあたたかい組織・ コミュニティのつくり方」の知見やノウ ハウのすべてを学べます。組織運営の 基本原則や事例・施策集などい、基礎 から実践まで活用できる書籍です。



NPOの組織マネジメントノウハウ・コレクション

NPO·非営利組織22団体に調査 を行い、現場で実際に行なわれて いる組織マネジメントの145の施 策・ノウハウを分析!重要な「3つ の観点」に集約し、その具体的な 事例を豊富に掲載しています。



コミュニティ白書

現代日本において多くの社会問題 が発生している構造要因を紐解い ていくともに、統計データなどのエ ビデンスをもって [つながり] と [コ ミュニティ」が健康・幸福・教育に効 果があることをご紹介しています。



会計報告

活動計算書

科目		金額 [税込]
【経常収益】	受取会費	400,000
	受取助成金	3,010,000
	事業収益	20,610,092
	受取利息	38
	雑収益	600
経常収益 計		24,020,730

	用] 事業費	給料手当	2,882,160	
		業務委託費	4,452,973	
		外注費	763,200	
		謝金	123,000	
		旅費交通費	1,449,124	
【経常費用】		消耗品費	161,516	
		荷造運賃	111,121	
		通信費	78,584	
		印刷費	782,648	管
		会議費	19,680	
		施設使用料	481,520	
		売上原価	11,529	
		雑費	68,960	
		事業費 計	11,386,015	
経常費用 計			22,267,949	
当期経常増減	額		1,752,781	

1,752,781	税引前当期正味財産増減額
467,100	法人税、住民税及び事業税
1285681	当期正味財産増減額
2,896,170	前期繰越正味財産額
4,181,851	次期繰越正味財産額

貸供対昭末

貝旧刈淵衣							
資産の部		負債の部					
科目	金額(円)	科目	金額(円)				
流動資産 (現金・預金)		流動負債 未払金	876,595				
現金	32,044	前受金	0				
普通預金	5,013,512	預り金	279,843				
現金·預金計	5,045,556	仮受金	39,612				
(売上債権)		未払法人税等	467,100				
未収金	2,073,708	未払消費税等	568,800				
売上債権 計	2,073,708	流動負債合計	2,231,950				
(棚卸資産)		固定負債 長期借入金	1,236,000				
商品	20,694	固定負債合計	1,236,000				
棚卸資産 計	20,694	負債合計	3,467,950				
(その他流動資産)		正味財産の部					
前払金	8,375	正味財産 前期繰越正味財産	2,896,170				
前払費用	501468	当期正味財産増減額	1,285,681				
その他流動資産計	509,843	正味財産合計	4,181,851				
流動資産合計	7,649,801	負債及び正味財産合計	7,649,801				
資産合計	7,649,801						

平成31年4月1日~令和2年3月31日(単位:円)

団体概要

特定非営利活動法人CRファクトリー 団体名



役昌報酬

給料手当

法定福利費

業務委託費

旅費交通費

消耗品费

荷造運賃

诵信费

印刷費

会議費

諸会費

賃借料

支払報酬

租税公課

支払利息

管理費 計

雑費

也代家賃

1 560 000

2.330.294

1,023,700

2.819.200

134,794 103 583

22.250

75.334

207565

48595

38000

1308000

423.000

575,554

204.584

10.881.934

1,583

5898

所在地 〒108-0014 東京都港区芝4-7-1 西山ビル4階

メールアドレス info@crfactory.com

設立 2005年9月26日 15期目

目的 この法人は、広く一般市民に対して、コミュニティ支援に関する事業を行 い、人々が愛着を持てるコミュニティがあふれる世の中を実現し、すべて の人が絆・居場所・存在意義を感じながら、生き生きと充実した人生を 送ることのできる世の中づくりに貢献することを目的とする。(定款第3条より)

事業内容

- (1)人々が居心地良くイキイキと活動するための組織基盤づくりを支援する事業
- (2)中間支援組織等と共に組織基盤づくりを支援するパートナーシップ事業
- (3)全国に「強くあたたかい組織」を溢れさせるための普及育成事業
- (4)地域に元気な団体と個人を増やすために自治体と連携して地域づくりを支援するアウトリーチ事業 (5)「強くあたたかい組織」をつくるためのノウハウ研究・開発、「つながりとコミュ
- ニティの重要性」についての研究・エビデンスづくりを行う調査・研究事業
- (6)その他、目的を達成するために必要な事業

役員

代表理事 呉哲煥

事 五井渕 利明

事 森 祐美子

(NPO法人こまちぷらす 代表理事)

(一般社団法人CAN net 代表理事)

事 阿部剛

(NPO法人まつどNPO協議会 理事)

監 事 石橋正行

事務局

事務局長 原田 篤志 管理部長 安達 亮

会員数

個人正会員 17名/個人賛助会員 21名/ 団体賛助会員 2名(2020/3/31時点)

17 CR Factory Annual Report 2019 今後の戦略・サービス一覧

会計報告·団体概要 CR Factory Annual Report 2019 18